

発見!

# 牛久のお宝

問 文化芸術課(牛久シャトー内) ☎874-3121

## 第22回 運ばれてきた須恵器

— 中久喜遺跡(ひたち野東5丁目) —



高坏(高さ約9cm)

古墳時代は、日本列島に倭国とよばれる国のまとまりができ、中国や朝鮮半島とのかわりを深めていく時代といわれています。日本列島に渡来した人びとが、さまざまな技術・モノ・文化をもたらしました。この新しい技術のひとつに須恵器づくりがあげられます。須恵器とは、ろくろを使って成形し、穴窯と呼ばれるトンネル状に掘り込んだ窯で1200度以上の高熱で焼き上げた上、その窯を密閉することで青く焼き



締める焼き物のことです。この時期の須恵器は、生産地が大府の陶器窯跡群などに限られていました。牛久市では、ひたち野うしく駅の東側にある中久喜遺跡で、古墳時代の住居跡から須恵器の高坏が発見されました。お椀に八の字形の脚がついた器で、脚の部分には三角形の透かしが施されています。この須恵器は、特徴から陶器窯跡群でつぐられ、牛久市へ運ばれてきたと考えられます。

# 里山の樹木

問 都市計画課 ☎内線2524

## 第58回 イロハモミジ



①紅葉期の樹形:井ノ岡町浄妙寺境内(平成19年12月9日撮影)  
②花:中央生涯学習センター構内(平成22年5月5日撮影)  
③果実:久野町観音寺境内(平成23年5月20日撮影)

ムクロジ科カエデ属の落葉高木。旧科名はカエデ科で、トキノキ科ともに変更されました。イロハモミジは、秋を彩るカエデの仲間の中で最も親しまれています。その分布は、福島県以南の太平洋岸と

四国・九州に限られています。県内では北部山地に見られますが、市内では社寺境内・公園・庭園などに植栽されています。その特徴は、重鋸歯のある5〜7個の裂片が深く切れ込んだ掌状の葉にあります。この裂片を端から「いろはに」と数える遊びが和名の由来です。春に10〜20個ほどの小さな赤い花をつけた散房花序(写真②)、夏に2枚の翼を広げた果実(翼果(写真③))の姿も見逃せません。

※牛久の里山樹木ハンドブック11ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874・6600)まで。  
【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章:羽賀正雄 写真①③戸塚昌宏 ②渡辺泰)

## 文芸さろん | 神無月 |

旅いけずせめてシャトーで紅葉が なす洗ふ水をはぢけて濃紫	あおたん
ススキ咲き暦をめくる満月は 秋蟬のいのちしぼれり葎の壁	富美子
ロッキングブルゆるゆるれて三尺寝 夕方の網戸に白い訪問者	ひとしくん
家を守る手かわいい仕草	高階さん
六十一年前の秩父の夏の味	サッコ
茄子を用いて再現したり	草葉
秋風に甘くかほるは金木犀	匿名希望
オレンジ色に輝く星よ	わだちゃん

### 〈次回募集テーマは「秋」〉

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など  
【あて先】〒300-1292 牛久市中央3-15-1  
「広報うしく文芸さろん」係 FAX:873-2512  
E:kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp  
【記載事項】作品、氏名、電話番号  
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)



※掲載作品は担当課にて審査の上、決定します。投稿いただいた作品が必ず掲載されるわけではありません。

『牛久市版レットデータブック追補版 牛久における絶滅のおそれのある野生生物』  
販売中 ※お求めは都市計画課まで(1,350円)